

会 議 録

会 議 名	第 2 回山陽小野田市中小企業振興協議会
開 催 日 時	平成 2 8 年 1 1 月 2 4 日 1 0 時～1 1 時 4 5 分
開 催 場 所	山陽小野田市役所 3 階 小会議室
出 席 者	清水俊宏 委員、西田雄二 委員、嶋田正平 委員、 長田毅彦 委員、三浦京子 委員
欠 席 者	水上隆男 委員、吉村敏彦 委員、吉尾毅 委員
事 務 局	産業振興部商工労働課
会 議 概 要	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ 《会長からあいさつ》</p> <p>3 議事</p> <p>○中小企業アンケート集計について 《事務局より説明》</p> <p>(1) 山陽小野田市中小企業振興推進計画の事業案について 《事務局より説明》</p> <p>施策 1 について (資料 2)</p> <p>(委員) 中小企業相談所補助事業について、実績等はどうか。</p> <p>(委員) 中小企業相談所において、相談・指導事務や各種セミナーなどを実施している。</p> <p>(委員) セミナー等は年何回くらい開催しているか。</p> <p>(委員) 多岐にわたる講習会を実施している。消費税増税時には税に関する事など、時勢に合った講習会に力を入れている。</p> <p>(委員) 融資制度などアンケート調査を見ると利用者が 4 分の 1 以下であるので、もっと PR してはどうか。新しい事業をする事も目玉となるが、既存事業がきちんと動いているかチェックすることも必要である。新しいものを作れば古いものを吸収合併</p>

するなどし、間口ばかり広いものとなってはいけない。

(委員)

中小企業がもっと商工会議所を利用するような形を作っていかなければならない。

(委員)

ワンストップ窓口は、商工労働課よりも商工会議所にあつた方が効率的ではないか。

(事務局)

創業支援計画の中で、商工労働課にワンストップ窓口を設定し、商工会議所、金融機関、大学等と連携を図ることとしている。

(委員)

商工会議所も会員組織であるので、市から紹介していただいて、その方に会員になっていただいて更に厚い支援をすることもできる。もちろん非会員の方であっても相談は可能である。

(委員)

忙しくて商工会議所の会報をなかなか見る機会がないため、会議など集まりの場で時間をつくり、様々な施策や情報をアピールすべきである。

(委員)

商工会議所は、中小企業者に寄り添った支援をしていかなければならない。

(委員)

施策1では、経営革新、技術革新がキーワードとなっているように感じるが。

(事務局)

非常に難しい課題であると感じている。

技術革新については、市レベルで対応するのは困難であり、国・県のメニューを推奨したい。経営革新については、中小企業診断士によるセミナーなどをイメージしている。

(委員)

商工会議所を通じて、成功例の紹介やセミナーをしていけば良いのではないか。市内の中小企業診断士等に何回かにわたってセミナーを実施してもらえばよい。単発では意味がない。

(委員)

経営革新塾を以前実施していたが、今は行っていない。

(委員)

今一度やるべき事業をピックアップし、必要な事業は継続していく必要がある。

(委員)

新しいものはなかなか進まないし、そこになかなか踏み込んでこないと思う。既存事業の充実をふまえた拡充が必要ではないか。

(事務局)

本日の午後から「求人票の書き方セミナー」を実施する。これは今年度から実施する新たな取組で、28事業所が参加予定である。事業所が困っている部分で参加しやすいセミナーを開催する必要がある。

(委員)

市だけで実施することが大変なものは、商工会議所の事業の中で実施するなど、きちんと住み分けをするべきである。事業は継続することが大切である。

(委員)

商工会議所としても、産学官連携を大いに活用したい。販路拡大や経営改革などの要求もある中で、市ができること商工会議所ができることをしっかり足並みを揃えて実施していきたい。

(事務局)

近年、大学は地域貢献に力を入れている。中小企業振興についてもその中でしっかりやっていきたい。

(委員)

創業応援金事業について具体的な内容はどうか。

(事務局)

創業支援認定事業所に対して応援金という形で支援したいと考えている。具体的な内容はこれからである。

山陽小野田市で創業するためのインセンティブとしたい。

施策2について

(委員)

シニア事業はシルバー人材センターとの住み分けが大切ではないか。シルバーがすべきことを市がする必要があるか。

(事務局)

事業を進める上で、シルバー人材センターへお願いする部分もでてくると思う。

市が積極的に取り組むことで、PRにもなり、中小企業者と高齢者雇用促進の両方に繋がる事業となる。

(委員)

企業にとっては、シニアの方であってもその方に価値があれば働いていただきたい。昔はシルバー人材センターがそういった方がいると営業活動をされていた。今はわからない。

(事務局)

シルバー人材センターでは、現在も受注機会の確保に努められている。

(委員)

制度のPRやニーズを把握するためのアンケート調査実施などしっかりアピールする必要がある。企業の情報収集・データベース化にも繋がり、シルバー人材センターもそのデータを活用し、事業所を効果的にまわるとよい。

(委員)

アンケート結果を見ても求人支援はしてもらいたいが、セミナーには行かない、融資は受けないなど、様々な障壁があるように感じる。それを取り除くPR活動が必要である。

(委員)

市の制度融資の金利が高いように感じるが、見直し等はどうか。

(事務局)

市の制度融資はセーフティネット的な意味合いもある。また、市の制度融資は、保証料を全額市が補給するため、金利と保証料を考えた場合は、それほど高くないと思われる。

(委員)

そういうことなら理解できるが、政府系・市中金融機関の制度も多くある中で、市としてのスタンスを明確にしておくべきである。

施策3について

(委員)

中小企業大学校利用者への補助はどれくらいを考えているか。

(事務局)

詳細はこれからだが、受講料のうち2分の1程度補助できればと考えている。

(委員)

こういった大学校へ社員を長期間にわたり入校させることは、企業としてどのようにとらえているか。

(委員)

幹部候補生として大学校への入校を考えることもあるが、現実問題として費用が高い。地元金融機関が実施するセミナー等があるため、そちらへ参加させている。人間能力を向上させるためには第3者の実施するセミナーへの参加は必要であると感じている。

(委員)

中小企業大学校入校への補助は、県内の商工会議所で若干ではあるが事例がある。

知識を得るほかにも、人と人の繋がりを深めることができるため有意義であると感じている。

(事務局)

中小企業大学校は公的機関であり、民間の同様の受講料と比べても安価であるため、連携を検討している。このたび策定する中小企業振興計画は5ヵ年計画であるため、補助制度については予算も勘案しながら、今後実施することも可能であり、中小企業者への支援のメニューとして持っておきたい。

(委員)

この制度は、利用できる企業とそうでない企業があることは

認識しておかなければならない。全ての企業が社員を入校させる余裕があるわけではない。

様々な方法があるが、どれが有効かを見極める必要がある。

(2) その他

(事務局)

来年2月に市の事業として合同面接会を開催する予定があるので、こちらにも是非参加していただきたい。

4 その他

5 閉会